

内海聡氏の FaceBook はこちら、Twitter では「キチガイ医 @touyoui」を名乗っている。

・「今年もスピ界は盛りだくさんすぎました。 トンデモオブザイヤー 2015 決定!」
2015.12.22, cyzowoman

年末の定番企画に乗っかり、当連載では今年キラキラ輝いていたスピ物件を振り返ってみましょう。

1位 トンデモ医の勢いが止まらない!

殿堂入りの トンデモ医 たち、今年も大活躍です(悪い意味で)。反医療、反原発、反ワクチン、打倒砂糖牛乳添加物。まずはロイヤルストレートフラッシュ並みに香ばしい思惑をお持ちでいらっしゃる自称キチガイ医こと、内海聡氏。今年も鼻息荒く「障害児の出産は親の責任」なる発言で大炎上。

子宮頸がんは放置してよし! と主張する、ご自身が癌のような近藤誠医師は、川島なお美さんが亡くなると「死んだら守秘義務の対象じゃないもんね」とはかりに週刊誌にセガンドオピニオンの様子を暴露するというケスツぶり。

胎内記憶でおなじみの池川明医師は、今年 10 冊近い新刊を出し、勢い止まらずといったところ。しかしこの年末は覚せい剤を与えられたりゴミ箱に突っ込まれたりして乳児が亡くなる事件がありました。これでもまだ「子どもは親を選んで生まれてくる 説を貫くのか、せひその見解をお聞かせいただきたいです。

・胸の鏡よ 心濁すな

・「内海聡について補足。」 2015-06-19

精神科医は、今日もやりたい放題を読んで、率直に思ったのは、精神疾患の差別や偏見を助長させる本だと思ひ、悲しくなりました。かなり毒のある文体だし、読んだ後かなり、内海先生の毒に精神をやられてしまいました。

精神病患者は、好きで薬を飲んでるわけではありません。薬を飲むのが辛くなる人が多いと思ひます。その弱味に漬け込むのが、精神科医は今日もやりたい放題で、薬飲むのが嫌な精神病患者は、安易に断薬してしまいます。そして起こったのが淡路島の殺人事件でしょう。

悲しくなりました。私も親に、薬に頼らずにね、と安易な精神論を素直に聞き入れ、私自身も健常者になりたいし、薬飲むのが嫌だったので、徐々に減らしていっても、精神科医の許可をもらって断薬したら、統合失調症になりました。

・「内海聡と坂口恭平～薬との付き合い方～」 2015-03-22

先月、内海聡の講演会に行ってみた。漢方で精神疾患を治すというのをちょっと聞いて、興味があり、何かのヒントになればいいかなと、行ってみた。

でも話の内容は平面的で、大袈裟に拡大解釈して、陰謀論を唱えてるような感じた。なんだかなーと、過激な事を言って、商売にしている人のように感じた。

その後の懇親会で内海先生に、統合失調症は漢方で治りますか?と聞いたら、僕の本を読んでない!病気なんて元々ないのだから、そんなのでは幸せになれない!と怒鳴られた。

ますます人間性に疑問を持った。

大学の有名な京大の教授でも、自分の本を読んでない人に、質問を投げかけられても、怒りはしない。寧ろ疑問を持って質問をする方が、良い風に捉えられた。

内海先生も器の広い人かなと、そんな感じで気軽に質問したのに、自分の本を読んでないということで、ダメだしするのは器の狭さを感じた。

・「2014年8月16日 17:25」 Facebook, Hideaki Takata

内海先生の件。

むかし、彼が、今ほどエキセントリックなことは言っていなかった頃、僕は、彼と、少しの間、ツイッターでつながっていたことがありました。

少し変な人で、それから、自分は医者に向かないと思っずいぶん悩んでいたようなことを言っていましたけれど、当時は、今のよう医学的におかしな奇説は言っていませんでした。

今の彼は、迷惑で有害なニセ医学をネットで喧伝しつづけるトンデモ医者です。

ですが、初めてツイッターでコミュニケーションをとった頃の彼は、自分が「普通の医者」ができないということに悩んでいましたけれど、それ以外に、「普通の医者」と大きな違いはなかったように思います。

では、何が、彼を、いまのような彼にさせたのでしょうか？

学生時代に、医学部に来なければよかったと後悔し、医者になってからも、自分が医者に向かないのではないかと悩み、自分は、他の職業のほうが回っていたのではないかと思ひ、悩んだあげく、結局、「普通の医者のルール」からドロップアウトしてしまったという人は、僕自身も含めて、何人も知っています。

僕の知る限り、そういう人の多くは、大学病院的なカリキュラムにない医学分野、漢方であったり、プライマリケアであったり、公衆衛生であったり、あるいは、基礎研究であったり、行政であったり、に関心を持つようになっていきます。

彼の場合は、そういう、まっとうな「プランB」にたどり着く前に、「自分の信者」に出会ってしまっただけで、それ以外に、他のドロップ組との違いは大きくないように思うのです。

今から、彼をまっとうな世界に戻すことは難しいと思いますが、彼と同じような問題医者を再度作らない、再発防止策はないものかと考えています。

・「「医学不要論」をお薦めしない(そして看過もしない)理由」 2013/05/29, 楽園はこちら側

紹介されていたので、大いに期待して買った。そして大いに失望した。残念ながら、本書はおすすめできる本ではない。「読まなかったことに」したい本だが、「デマは看過しない」がリスコミの要諦なので、ここに記す。

個人的には、「不要な医療」は日本に普遍的だと思う。それを分析し、「そこは不要ですよ」とまとめて医療界、そして世間に発表するのは医者の大事な仕事である。そういう仕事を本書に期待していたのである、ほくは。

そうではなかった。本書は単に筆者の医学、医療嫌い感情をヒステリックに発露しているに過ぎない。新谷弘美とか近藤誠とか安保徹とか母里啓子とか浜六郎などが引用元なのが問題の骨子ではない(そこで反論すると単なる信念対立になるだけですから)。根拠の甘さ、論理の飛躍が問題なのだ。

・「「噴飯モノ」「精神科は今日も、やりたい放題」?」 2012年07月31日, リカバリー志向でいこう!

「精神科は今日も、やりたい放題~ ”やくざ医者” の、過激ながらも大切な話」という挑発的な本が大々的に売られています。

精神科は99%が誤診! ついに出了、医学界内部からの告発。精神科ほど、甘~い商売はない、というキャッチーな帯がかけられ、近くの書店でも本棚の大きなスペースで並べられ、これまでに累計10万冊以上も売れているようです。

苦しむ患者さんをなかなか良くすることができない精神医療を叩くのは気持ちがいいですから、世の中には、このような言説を求めているのでしょう。最近のNHKの番組を始め、この様な言説が出てくるのは精神医療周辺ではいつものことなのですが、これは病気で苦しんでる患者さんや真摯な精神医療従事者にとって非常に失礼な話です。妙な精神科に対するルサンチマンが渦巻いています。

精神科をたたくことで病者が救われるなら文句は言いませんがね・・・。

内容はよくぞこんな本がかけたものだというレベルで個人的に見れば、怒りを通り越して笑える本なのですが、こいつ言説が広まることで精神医療による医療被害と逆の意味で不幸をつくりかねないので、この場で一応反論させていただきます。

障害児の親は反省しないといけないのか？

・「「トンデモ医師の「障害児を産んだ親は反省すべき」発言が炎上 宋美玄氏に聞く、産婦人科医としての反論」 2015.06.17, ウートビ

この内海医師は過去にも、「抗うつ剤と麻薬、覚せい剤は基本的に同じ」「ワクチンは全て効かないし、むしろ必ず病気が増える」といった発言をしているが、今回の「帝王切開や障害児の出産は親の責任」発言に、ネットは大炎上。「障害を持つ親として許せない」「自分を責めている親もいるのに、さらに追い詰めるのか」「この人の親がこんな子どもに育てたことを反省す

べき」といった、強い抗議のコメントが溢れている。

今回の内海医師の発言について、産婦人科医の宋美玄氏はウートピに以下のようにコメントを寄せている。

「まず、内海医師はもともとトンデモな発言で有名なので、今回の発言に関して「またか」といつ気持ちで特に驚きはありません。帝王切開による出産になること、障害児を産むこと、親のせい、不摂生などではないことは改めて説明するまでもありませんが、中には今回の内海医師の発言をみて傷ついたり、発言内容を信じてしまい、帝王切開で出産した人や障害児の親を傷つけるような人が出て来ないとも限らないので、そのようなことがないよう、産婦人科医としてはつきり否定いたします」

・「「障害児が生まれるのは親の食生活が乱れてるから。一生反省しろ」有名医師の発言に批判が殺到」 2015/6/15 11:46, buzznewsjapan

・「内海聡「帝王切開や障害児の出産は親の責任」」 2015年06月16日, NAVER まとめ

・「6月13日」 内海聡, FaceBook

最終的には元気に生まれれば何でもいいです。よく帝王切開だとダメだという人もいますが、もちろん理想が自然分娩なのも分かります。ただ、帝王切開だったとしても、子供を全身全霊をかけて守りましょう。障害の子とも同じです。障害の子も生かされるというのはいかに産む前妊娠前に両親が食と生活が乱れているかの証、それを反省しなければなりません。それを抱えてその子を一生守り続けることが、真の親に課せられた試練なのです。

・「6月14日」 悠々ママ(ゆゆママ) @yuyumama1211, Twitter

ちょっとだけ、反論してみました。
このあと、すぐブロックされましたけど。
障害児の親として許せなかったの。

こうした一連の抗議に対する内海氏の反応は以下の通り。

・「6月16日 8:40」 内海聡, FaceBook

ニンゲンたちのクズっぷりw

これまでネット上の炎上は数ありましたが、淡路の事件に続いてまたやあつち系の人とい、医療者たちが偽善の価値もないことわが構構w。でもはんなら親と産むと集まる毒親、毒家、医療系アノニマス、アカウト不明ニンゲン、寄生虫、業者の人々w。

そもそもFBのメッセージなどいつもあんな感じで、全員質問者にクズ扱いして意味も分からなく、日常だし、即ちネット上にアップされコメントが次から次へとつくの、その意味も分からず、人一つやばい少ないんでしようねw。いまや自民党やっている業者によるネット誘導は、個人や良心的なことをしたいとボザク偽善者たちを巻き込んで、アホンシンの愚かさ加減を如実に教えてくれるわけですw。だいたい出てくるニンゲンが在日とか新聞系スパイと噂される奴が多いw。

まあ、炎上するのはとっても喜ばしいことであり、昨日だけで10人弱のFBFが消えたのも喜ばしいことですが、ますます賛否両論盛り上がるようになり、医療界や食業界や福祉業界の罪を欺くための認識も広がっていきしょうw。当然ながら業界たちは強力な資金力と背景をもっている。もはや一般市民には大力打ちできない力となっているわけで、それを気付かない市民の愚かさ自分たちに跳ね返ってきていることには気付きませんw。

この国に未来があるかないかと問われれば、もうないといしか言いようのない状況ですねw。見せかけは平和なように見えますときもありますが、それはどこまでもシステムに従い奴隷です。この国を許容したものであります。システムは考えるものや反逆するものを押しと非常に危険なため、毒漬けをするために存在しています。人々が考える力を取り戻すことでしょw。遺伝障害なんぞこの世界にあるわけないのにw。

よく安倍信者だけが問題視されるようですが、結局問題は日本人でありゲーミンでありクレタ君であり、システム全体の信者であり医療、食、放射能、マネー、政治信条、その他にも含める信者なのですw。統一教会や創価会員系やネトウヨ系、電気系から医学ムラや食ムラの含めて、それらに類する人は数知れず、そこに雇用されているネット工作員たちも、単に金の

・「2014年7月31日」 Facebook

るのな方飲
す年わ漢に
推がかの期
がるにる長
どな別れは
なにもさ方
ん喘でい漢
さ範子違の
子の一働采
合そ口く本
百もフよ
条字アと
東医ないこ
は、洋的ない
は、東法しない
の、糖漿も
るう春推で
き思宋は何い
でと。ともいい
めかる。こてが
勧つある全方
おろでせ安た
てなちまはい
しにか飲薬お
と一をを生て
学シでトのう
医八頭ソ方知
のオリメ漢ほ
庭メありと
家ホでフとこ
してのサこい
とと權につな
と法利供いは
心療や子こで
中然やはるの
を自は私あも
法の学てな
替風医が全う
代日東いはむ

タイ効活きたら
人アもくへるな者
のメでなるなつ医
そればれに使用
で、そのさスにか
いす、シ直八的と
は、いメ今本庭か
で替ホでの家方
療者入らる人との
治療かかきこ育し
うで分るで、た、教
使用成いがいし、ら
を期待てとなとなが
シ果な入るとよ願自
バ効的がすちとり
オ高料薬活いがた
メがはなもといえ駄
ホが性的にいな変無
ス全れ学とならなく
パ安こ医なな方全
オに、動症扱はたは
メ様が波遣とねなと
ホ同すく後いけあこ
はもまなうな受をな
私れいでちでを療そ
は、使けク者練医そ
て、をたワ医訓局
い、が液巢、はも結、
つい、添効き二年。と
にな、積みでシ何らう
一か、希人がパでヘど
シしる、いと才校字が
オせは、れ思こメ学も育
メ任呼のす、ホはで教
ホにとく用だ、め目倫

由井寅子等とは違い、内海聡氏は医師免許を持っているようだが、たいした根拠もなしに通常医療に否定的なことを平気で言うので、問題が大きい。

体罰の会

・「「第2回シンポジウム」について」

体罰の会は、今年で発足から6年目に入りました。
平成26年5月10日（土）東京・文京シビック小ホールにて
「体罰を科学する！」シンポジウム
を開催します。

内海氏は、戸塚ヨットスクールの戸塚宏校長らとともに、体罰の会の第2回シンポジウムに登壇者として参加したようだ。

反ワクチン論

・「「現役医師が訴えるワクチンの恐ろしさ」 2014年04月22日 19時配信（新刊JP編集部）

つまり、ワクチンを打っても病気予防の効果はほとんどありません。むしろ、ワクチンに含まれる微量の水銀や動物細胞、抗生物質や乳化剤といった物質による「薬害」のみが、体に悪影響を与えているというのです。

特に子どもの場合には被害が甚大です。今では、乳児に多くのワクチンが投与されるため、許容量の数百倍を超えて水銀が体内に入るような状況です。水銀やアルミニウムが、脳に重大な損傷をもたらすことは周知の事実。アメリカでも、イタリアでも、ワクチンと自閉症の因果関係が認められています。

子どもについて話を戻せば、子どもの健康状態を一番よく見ているのは親自身です。子どもの健康を守るためには、親自身が「家庭医」になることを本書では勧めています。子どもに何かあったらすぐ病院に行く、という安易な考えはやめ、家庭でできる自然療法や食事療法を本書で知るといいでしょう。

ここまで明確な反ワクチン・反現代医療を打ち出している主張も珍しい。ワクチンを打たなかった場合、なにかあっても病院に行かなかった場合、もし子供に健康被害が生じたら誰が責任を取るのだろうか？

以下のように「エボラ出血熱のウイルスを開発したのはアメリカである」との陰謀論も吹聴している。

・「10月16日 9:41」 FaceBook

大手メディア以外に目を向けると、アフリカ西部リベリアの新聞デイリー・オブザーバーは、アメリカこそがアフリカで流行しているエボラ出血熱のウイルスを開発と報じています。デイリー・オブザーバーは、科学的根拠も挙げてエボラ出血熱のウイルスを開発したのはアメリカであるとしました。私はその科学的根拠はもちろんでいいませんが、報告ではアメリカはアフリカで秘密活動を行い、合意書2000という暗号でこの地域でエボラ出血熱を流行させることを計画したとされています。研究者はプロドリック教授といい実名報道され、アメリカの軍事工業会社によって開発され、この会社の全ての秘密実験はアフリカで行われているそうですね。